

さいとう淳一郎の日々の街頭演説を、紙上でお伝えしています。

次の世代のために…

“子どもや孫たちが帰ってくるまちづくり”を目指して
栃木県議会議員

さいとう淳一郎街頭演説レター

第 3 号 (再版)

発行日 平成 23 年 7 月 1 日

発行者 栃木県議会議員

さいとう淳一郎

〒329-2136 矢板市東町 3006-3

栃木県政への挑戦にあたっての3つの約束

私たちのふるさと矢板市は、東京から 140 km圏という恵まれた位置にありながら、そして東北自動車道や国道 4 号線、さらには J R 宇都宮線といった交通の便に恵まれていながら、近隣の市や町と比較して人口は伸び悩み、地域経済も停滞しています。

こうした停滞を打ち破るために、『さいとう淳一郎』は若さと新しい発想で、ふるさと矢板に元気を取り戻していきたいと考えています。

『さいとう淳一郎』は栃木県政に挑戦するにあたり、「伝える政治」「一緒に考える政治」「ガラス貼りの政治活動」の3つを矢板市民の皆さんにお約束します。

1 番目のお約束は「伝える政治」です。『さいとう淳一郎』は日ごろから市民の皆さんとのコミュニケーションを大切にするだけでなく、街頭演説の機会などを通じて、一人でも多くの皆様に対して、そして一部の有力者だけではなく不特定多数の市民の皆様に対して、今どのようなことを考えて、どのような問題に取り組んでいるのか具体的に分かりやすくお伝えしていきます。

2 番目のお約束は「一緒に考える政治」です。『さいとう淳一郎』は市民の皆様の御要望を単に国や県に取り次ぐのではなく、まずは皆様と現地現場で一緒に考え、県職員 13 年半の経験や知識を生かした、より良い解決の方向性を御提案します。

「国や県から予算を取ってさえくれば矢板は発展する」という時代は終わりました。なぜなら、もう国や県にもお金がないからです。私も今年の 10 月まで県庁に勤めていました。ですから県の財政が非常に苦しいことは良く知っています。

ですからこれからは、県民の皆様のお知恵やお力もお借りしてアイデアと創意工夫で、ふるさと矢板に新しい息吹を吹き込んでいかななくてはなりません。

最後のお約束は「ガラス貼りの政治活動」です。「みんなの党」は「増税の前にやるべきことがある！」として、まずは国会議員自らが身を削ることを強調しています。

『さいとう淳一郎』も全く同感です。栃木県議会においても、議員の数を減らしたり、議員の給料をカットしたりするのは言うまでもありません。

また、県議会議員の“第2の給料”と批判されることが多い政務調査費（議員 1 人につき月 30 万円相当が支給）についても、独自の基準を定めて県民の皆さんに納得していただけるような「ガラス貼りの支出」に努めていきたいと考えています。